

第2章 船橋市の文化的な特徴

1. 船橋市の文化振興のあゆみ

船橋には、約3万年前の旧石器時代から人々が集い、営み、賑わってきた歴史があり、様々な文化を育んできました。特に江戸時代になると、江戸と上総・東金・成田を結ぶ宿場町として栄え、人々の往来が盛んになり、江戸から著名な俳人を呼び、近隣農村の人々が集まり句会を行う一方、江戸に出て、絵画などを学ぶ者も現れるなど、文化的な広がりが見られるようになりました。また、明治時代以降、鉄道の敷設により交通の利便性が向上し、県外からも多くの人が訪れるようになり文化的交流も進み、昭和初期頃までには商業の中心地・本町通り周辺に、寄席やダンスホールができ、多くの市民が身近な場所で文化に触れる機会が増えていきました。

終戦後には、生活が苦しい中でも、市民が自主的に学習できるような環境を整えるため図書館や公民館等の社会教育施設を開設しました。昭和22（1947）年には男声合唱団、昭和30（1955）年には、ボーイスカウトの音楽隊から発展した県内初の市民吹奏楽団が結成されるなど、市民主体の文化活動が生活の一部として動き始めました。昭和30年代以降は、大型レジャー施設が開業し多くの人々で賑わうとともに、交通網の発展及び住宅団地の造成があいまって、人口が飛躍的に増加し、昭和40年～50年代には小中学校が多く新設されました。まちの発展、人々の生活の多様化とともに、様々な分野の団体が設立されるなど市民の文化活動が活発に展開されていきます。また、子供たちの文化活動として、教育委員会が小中学校へ楽器を貸与する事業に取り組み、多くの小中学校の器楽部や合唱部が全国的なコンクールなどで結果を残し始めます。

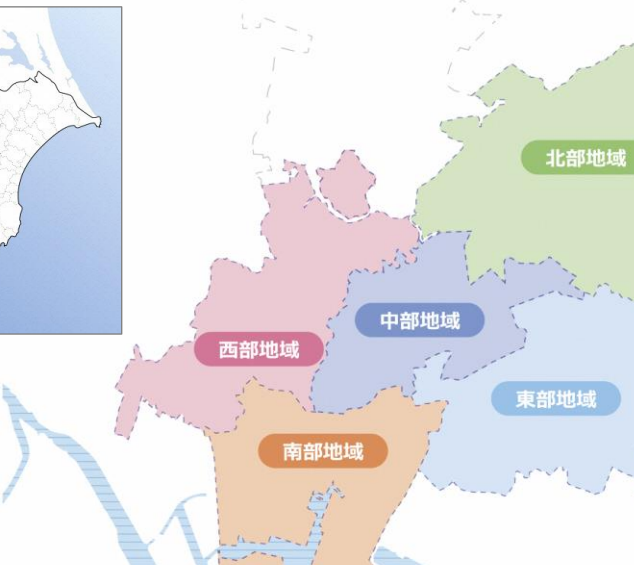
これらの市民主体の文化活動や学校における音楽活動は本市の芸術文化における大きな特徴となっています。なかでも平成6（1994）年に開始した「音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭」は、音楽団体や小中学校などが参加し活動の成果を市民に披露しており、今では出演者、来場者を合わせて4,000人を超えるイベントとして多くの人々に親しまれています。

さらに、平成11（1999）年には、（財）清川記念館からの、船橋ゆかりの作家・椿貞雄の絵画を中心とした美術品の寄附受入れなどを通じ、市所蔵の美術コレクションが形成されました。

文化財についても、開発によって失われる埋蔵文化財の記録保存に努めるとともに、市内に伝わる祭礼や神楽といった伝統行事の継承に向けた支援を行っています。取掛西貝塚（縄文時代早期）は、平成29年度から3年にわたる発掘調査の成果をまとめた総括報告書を刊行し、令和3年10月には市内初の国史跡に指定されました。

このように、船橋の文化は、歴史や風土、船橋に関わる多くの人々の思いや活動により脈々と育まれ、今も私たちの身近なところで芽吹き、息づいています。

しました。



The map shows Hokkaido divided into five regions, each with a colored label in a rounded rectangle:

- 北部地域 (Northern Region) - Green
- 西部地域 (Western Region) - Pink
- 中部地域 (Central Region) - Blue
- 南部地域 (Southern Region) - Orange
- 東部地域 (Eastern Region) - Light Blue

An inset map in the top left corner shows the location of Hokkaido within the Japanese archipelago.

まちの中央を流れる海老川、三番瀬、船橋大神宮など自然や歴史等を背景として、現在も賑わいと活気にあふれた船橋市の玄関口であるとともに、海と港に親しむことのできる地域です。

市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）、
飛ノ台史跡公園博物館、市民ギャラリー、茶華道セ
ンター、中央公民館、海神公民館、浜町公民館、宮本
公民館、中央図書館、青少年会館、ふなばし三番瀬
環境学習館、勤労市民センター

飛ノ台貝塚、宮本台遺跡群、大仏追善供養、船橋大神宮の神楽・灯明台、ばか面おどり、八劔神社祭礼など

凡 例

- 木一ル・郷土資料館等
- 公民館
- 図書館



西部地域

自然・歴史・都市景観が共生する地域

日蓮宗大名刹・中山法華経寺（市川市）の隣接地域であり、内陸の木下街道周辺には多様な歴史的特性があります。

現在も比較的交通の便がよく、都心に最も近い地域でありながら、湧水や社寺林などの自然も多い地域です。

【文化振興の拠点】

葛飾公民館、西部公民館、塚田公民館、法典公民館、丸山公民館、西図書館

【文化資源の一例】

印内台遺跡群、東中山台遺跡群、印内八坂神社祭礼、船橋海軍無線電信所跡など

資料編-6 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。



中部地域

地域の歴史が脈々と受け継がれる地域

国史跡に指定された取掛西貝塚の他、夏見の台地上には縄文・弥生・古墳・古代・中世の複合的な遺跡があります。

また、かつては伊勢神宮領の夏見（船橋）御厨といわれた地域が含まれています。

金杉・高根には今も歴史を感じさせる景観が残ります。

【文化振興の拠点】

新高根公民館、高根公民館、高根台公民館、夏見公民館

【文化資源の一例】

取掛西貝塚、夏見台遺跡、高根町神明社の神楽、節分祭（日枝神社）など

資料編-7 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。



東部地域

まちの歴史と未来への息吹を感じられる地域

国登録有形文化財の東葉高等学校正門（旧近藤家住宅長屋門）の他、下総三山の七年祭りが行われる二宮神社など、数多くの文化財があり、郷土資料館を中心として船橋市の歴史を多く感じることができます。

また、総武線の津田沼駅は交通の利便性がよく、周辺には複数の大学があり、多くの学生が行き交う地域にもなっています。

【文化振興の拠点】

郷土資料館、東部公民館、習志野台公民館・東図書館、飯山満公民館、三田公民館、薬円台公民館

【文化資源の一例】

下総三山の七年祭り、二宮神社社殿・神楽・イチヨウ、東葉高等学校正門（旧近藤家住宅長屋門）など

資料編 8 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。



北部地域

自然豊かな景観により船橋市の原風景がある地域

緑豊かな環境に恵まれており、畑作を中心に農業が営まれ、果樹園が点在し、古くからの民俗行事も残る地域です。

また、子ども美術館のあるふなばしアンデルセン公園は人気が高く全国的にも有名です。

【文化振興の拠点】

海老が作公民館、小室公民館、坪井公民館、二和公民館・北図書館、北部公民館、松が丘公民館、三咲公民館、八木が谷公民館、ふなばしアンデルセン公園・子ども美術館

【文化資源の一例】

小室台遺跡、小室の獅子舞、神保ばやし、楠が山の辻切りなど

資料編- 9 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。



3. 文化振興の拠点

市民が文化への関心を高め親しむためには、文化に触れる場の整備が重要です。

船橋市では、市民の文化活動を支える拠点として市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）、市民ギャラリー、茶華道センター、郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館といった文化施設を整備しています。

また、公民館や図書館などの社会教育施設、ふなばしアンデルセン公園、ふなばし三番瀬環境学習館などのほか、地域のコミュニティ施設や民間施設も、市民が継続して文化活動に親しむために重要な役割を担っていく場とし、これらを総じて文化振興の拠点と捉えます。

文化芸術ホール（市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール））

市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）は、市民が優れた文化芸術を享受する機会や自ら文化芸術活動を実践する場を提供し、併せて文化芸術の振興に資する事業を行うとともに、独創性のある新たな文化芸術創造活動への支援等を通して市民文化の発展に寄与することをめざしています。

また、事業の運営や企画に関する専門的な助言等を得るため船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー^①を迎え、それぞれの施設の空間にあった特色ある事業運営を図ります。

市民ギャラリー、茶華道センター

市民ギャラリーは、市民が日頃の文化・芸術活動の成果を発表する場を提供し、また、身近な展示施設として芸術作品に親しめる機会を創出しているほか、市の所蔵品を積極的に活用した事業を行っています。また、茶華道センターは、茶道・華道・日本舞踊などの活動場所としてご利用いただくとともに、日本の伝統文化を普及・啓発していくために各種事業を行っています。

両施設は、船橋スクエア 21 ビルの 3 階と 5 階に位置しており、一体的な管理・運営を行っています。

博物館（郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館）

郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館は、郷土の歴史や文化に関する資料を収集し、調査・研究を進め、その成果を展示事業や講演会等を通じ発表することで、市民に生涯学習の機会を提供しています。

併せて、両館が収蔵する郷土資料を良好な状態で未来へと継承していきます。

^① 船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー：文化芸術ホールの運営に関して多様な文化芸術分野から専門的な助言を行い、市民が優れた文化芸術を享受する機会及び独創性ある新たな文化芸術の創造を支援する。

市民文化ホール

市民の文化芸術活動の拠点として開館して以来、音楽、演劇、伝統芸能、舞踊など、多種多様な分野にわたる自主事業を行い、市民が優れた文化芸術を享受する機会を提供しています。

市民が文化・芸術活動を発表する場としても、大変使いやすく、多くの市民に利用されています。

【所在地：本町 2-2-5】
 【最大定員 1,000 名、舞台面積 356 m²、楽屋、リハーサル室】
 開館：昭和 53（1978）年 7 月

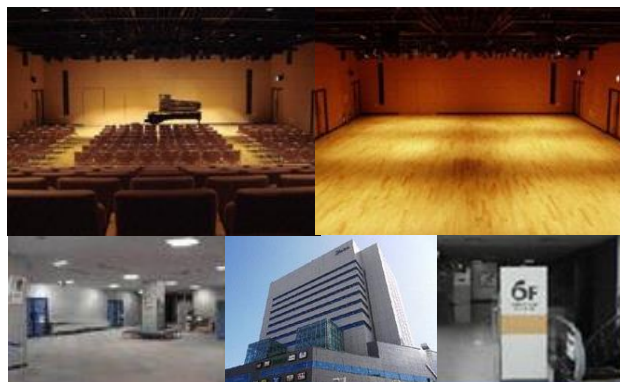


市民文化創造館（きららホール）

文化の新しい発信基地として船橋駅前の船橋フェイスビル 6 階に開館しました。座席は可動式で出演者と観客との距離が近いライブ空間として親しまれています。創造性が高い多彩な事業や青少年を対象としたワークショップ、若い才能の発掘や支援に加え、伝統芸能事業も行うなど、文化を創造しながら船橋市の文化・芸術を育むことを目指しています。

ホールの代名詞ともいえるべき、よりみちライブは、ジャンルにとらわれない音楽などを発信しています。

【所在地：本町 1-3-1 フェイスビル 6 階】
 【最大定員 264 名、ホール面積 285 m²、控室】
 開館：平成 15（2003）年 4 月



市民ギャラリー

市民が創作活動の成果を気軽に発表できるとともに、身近に芸術作品に親しめるギャラリーとして、絵画・写真・彫刻・陶芸等の展示にご利用いただいています。

4 つの展示室・2 つのホールあわせて展示面積 745 m²を有し、可動式パネルによりフレキシブルなレイアウトが可能です。

【所在地：本町 2-1-1 船橋スクエア 21 ビル 3 階・5 階】
 【市民ギャラリー 展示室 4 室、ホール 2 室／茶華道センター 茶室 3 室、和室 3 室（舞台付 1 室）】
 開館：平成 5（1993）年 4 月



茶華道センター

日本古来の伝統文化に関する拠点施設として、市民の日頃の文化活動の実践や、各種教室事業による普及・啓発の場として親しまれています。

茶室は、全てに水屋が付いているほか、庭園を備えるなど格調高い雰囲気醸成しており、本格的な茶会にも対応可能です。また、和室には舞台もあり発表会でもご利用いただけます。



郷土資料館

船橋市を中心とした地域の歴史や文化に関する資料を収集・保存し、調査・研究の成果を、展示や講座等を通じて市民に公開しています。

展示では、考古・歴史・民俗を中心とした収蔵資料と、昭和になってからの市内の写真や動画を見ることができます。

【所在地：薬円台 4-25-19】

〔第1・第2展示室、第1・第2収蔵庫、学習室、研究室〕

開館：昭和47（1972）年6月

※平成30（2018）年1月にリニューアルオープン



飛ノ台史跡公園博物館

約8,000年前の縄文時代早期の遺跡として古くから知られる飛ノ台貝塚を平成9（1997）年に市史跡に指定し、「史跡公園」として保存するとともに、飛ノ台貝塚や市内の縄文遺跡から出土した遺物等の展示をする「展示施設」を設置し、縄文専門博物館としてオープンしました。

また、博物館開設にあたり、出土品や遺構を広く市民に展示公開することにより、縄文時代を知り、ふるさとの歴史や文化に対する興味や関心を高めることを理念としています。

【所在地：海神 4-27-2】

〔ギャラリーコーナー、常設展示室、ワークショップ室、研究資料室〕

開館：平成12（2000）年11月



その他の文化振興の拠点

公民館 (26館)	中央公民館、海神公民館、浜町公民館、宮本公民館、葛飾公民館、西部公民館、塚田公民館、法典公民館、丸山公民館、新高根公民館、高根公民館、高根台公民館、夏見公民館、東部公民館、習志野台公民館、飯山満公民館、三田公民館、薬円台公民館、海老が作公民館、小室公民館、坪井公民館、二和公民館、北部公民館、松が丘公民館、三咲公民館、八木が谷公民館
図書館 (4館)	西図書館、中央図書館、東図書館、北図書館
その他	ふなばしアンデルセン公園・子ども美術館、ふなばし三番瀬環境学習館、勤労市民センター等

4. 船橋市の文化振興の現状と課題

第1次基本方針に沿った施策の展開や社会背景の変化を捉えるとともに、文化・芸術に対する市民ニーズをアンケートから把握し、本市の文化振興に関する強みや今後の課題を整理しました。

(1) 強みと弱み

強 み
① 船橋市は県内第2位となる64万人（令和3年10月現在）を越える人口を有しており、生活の中で活発な市民活動が行われています。 ② 市内の各地域に、公民館・図書館といった文化振興の拠点となる施設があり、身近な場所で市民主体の多様な文化活動が行われています。 ③ 市内には、歴史ある市民音楽団体が数多くあり、「音楽のまち・ふなばし」を体現すべく、音楽文化を支える活動を続けています。また、小中学校の器楽部や合唱部は全国的なコンクールなどでも活躍しており、学校での音楽活動も盛んです。 ④ 市民の活発な文化活動を背景に、かねてより市民・文化団体と行政が連携し、各種文化事業に取り組んでいる実績があります。 ⑤ 市内には、鉄道・バスといった公共交通網が発達しています。特に、船橋駅は都心とのアクセスも良好で、駅周辺には市民文化ホールや市民文化創造館（きららホール）、市民ギャラリー、茶華道センターといった文化施設が集積し、様々な文化事業を展開しています。

弱 み
① 文化団体の会員、地域の伝統行事・祭事の参加者、文化財の継承者など、文化の担い手の高齢化・減少が進んでいます。 ② 文化施設、イベント・事業、文化財などについて、魅力を伝えきれておらず、地域の文化資源として認識されていないものがあります。 ③ 文化施設の多くが船橋駅周辺に立地しているため、イベント・事業の実施会場が南部地域に偏りがちになる傾向があります。 ④ 市内外を問わず、本市に対して文化的なイメージを持っている人は決して多いとは言えないのが現状です。

(2) アンケート概要

本市を取りまく課題を把握するため、下記のとおりアンケートを実施しました。

【アンケート調査概要】

記号	調査名及び実施時期	対象	回答者数
市民	文化活動に関するアンケート調査 (以下、「市民アンケート」という。) 令和3(2021)年 6月15日(火)～7月10日(土)	20歳以上の市民から無作為抽出した2,000人	571人
中高生	文化活動に関する中高生アンケート調査 (以下、「中高生アンケート」という。) 令和3(2021)年 6月21日(月)～7月9日(金)	市内「東西南北中」の5区分に属する地域に所在する中学校各1校及び市立船橋高校	828人
周辺市・東京	文化活動に関するWEBアンケート調査(以下、「市外アンケート」という。) 令和3(2021)年 8月6日(金)～8月10日(火)	船橋市周辺11市 ^② と東京23区在住20歳以上の男女	224人
文化団体	文化活動に関する文化・社会教育団体アンケート調査(以下、「文化団体アンケート」という。) 令和3(2021)年 6月15日(火)～7月14日(水)	令和3(2021)年度船橋市社会教育関係団体名簿(公民館利用団体)のうち「芸術・趣味団体」、及び「研究・教養団体」の一部	488団体
市政モニター	令和3年度【第1回】市政モニターアンケート「船橋の文化」について (以下、「市政モニターアンケート」という。) 令和3(2021)年 6月25日(金)～7月9日(金)	市政モニター ^③ 300人	285人

なお、詳細な課題分析は資料編に掲載しています。

② 船橋市周辺11市(千葉市、野田市、流山市、我孫子市、松戸市、柏市、鎌ケ谷市、市川市、浦安市、習志野市、八千代市)

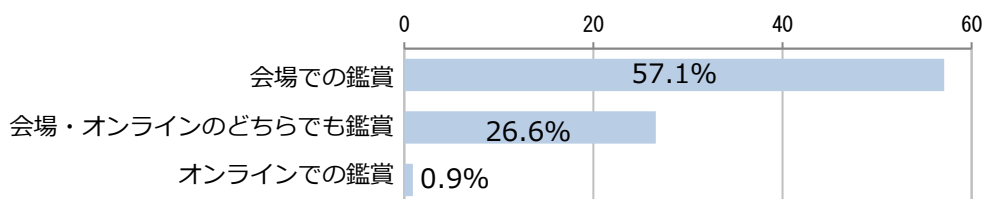
③ 市政モニター：広く市民の皆様の意識を把握するため、モニターの方々にアンケート調査などを行い、今後の市政運営の基礎資料として活用する制度。地域・年代・性別などを考慮して選出し、任期1年で行われています。

(3) 課題

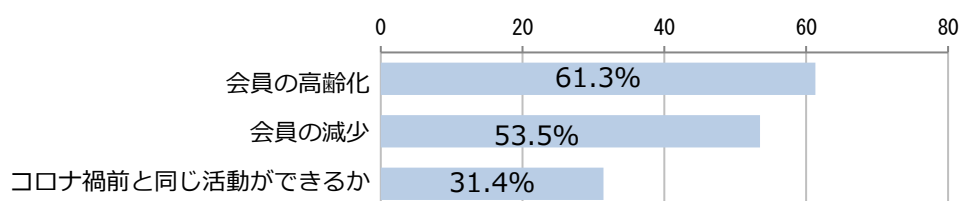
1 世代を問わずアフターコロナ、ウィズコロナの文化施策が求められています

- 市民アンケートでは、新型コロナウイルスの影響により、鑑賞・観覧の頻度はコロナ禍以前と比べて「減った」との回答が約7割となっています。また、文化団体アンケートでは、約半数が「コロナ禍のため活動を休止している」もしくは「活動頻度が減少している」と回答しています。
- 市政モニターアンケートでは、コロナ収束後の社会生活における文化・芸術が果たす役割は、「これまで以上に重要となると思う」との回答が約8割となりました。また、鑑賞形態として、「会場での鑑賞」を希望する回答が圧倒的に選ばれています。コロナ禍で鑑賞を控えていた方々に安心して会場に足を運んでもらえるよう施策を実施していく必要があります。
- 一方で、今後もオンラインでの鑑賞についても引き続き希望されています。中高生アンケートでは、今後力を入れていく取組として「オンラインによるイベントやワークショップ等の充実」が上位になっています。コロナ禍で急速に普及したオンラインの取組を継続して行っていくことが求められます。
- 今後活動するにあたって感じている問題点や課題として、会員の高齢化・減少の次に、「コロナ禍前と同じ活動ができるか」が挙げられています。
- 文化団体意見交換会では、「例年通りの事業実施はできなかったものの、実施方法を変更したことで若者の参加が増えた」「オンラインで海外の文化団体と交流を企画している」との声が聞かれました。文化団体においても、コロナ禍を契機に従来の事業形態の見直しが行われ、新たな層との交流が生まれています。

コロナ禍が収束した後に望む鑑賞方法【市民アンケート】



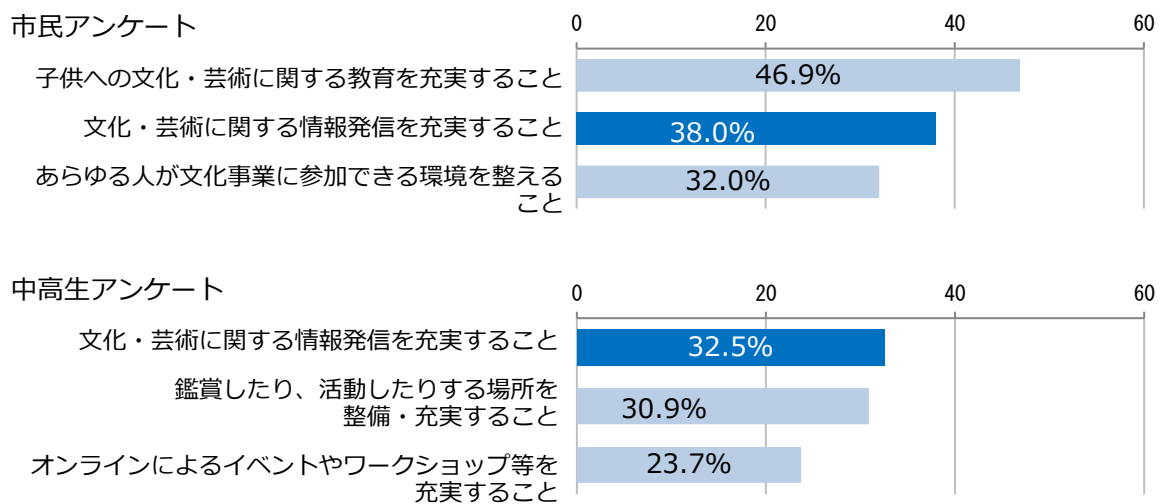
活動するにあたって感じている問題点や課題（上位3位）【文化団体アンケート（複数回答）】



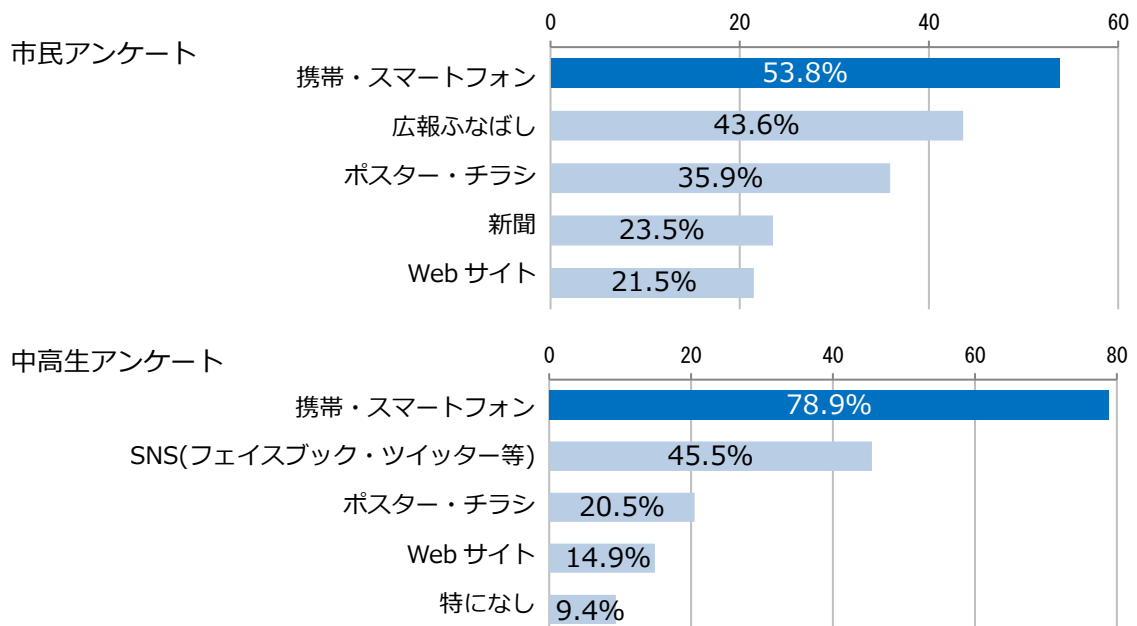
2 市民の鑑賞・活動につなげる情報発信が求められています

- 市民アンケートでは、活動をしていない理由、あるいは活動をしている中での課題として「情報が少ないこと」が上位になっています。
- 今後力を入れていくべき取組として、市民アンケートと中高生アンケートで「情報発信を充実すること」がそれぞれ 38%、32.5%となっており、鑑賞や活動につなげるための情報の整理・発信が必要です。
- 情報を入手する媒体として、「携帯・スマートフォン」を挙げる方が半数を超え、中高生アンケートにおいては 45.5%が「SNS」で情報を取得しています。情報の発信方法も多様化しており、より効果的な情報発信が課題といえます。

今後力を入れていくべき取組（上位3位）【市民アンケート、中高生アンケート（複数回答）】



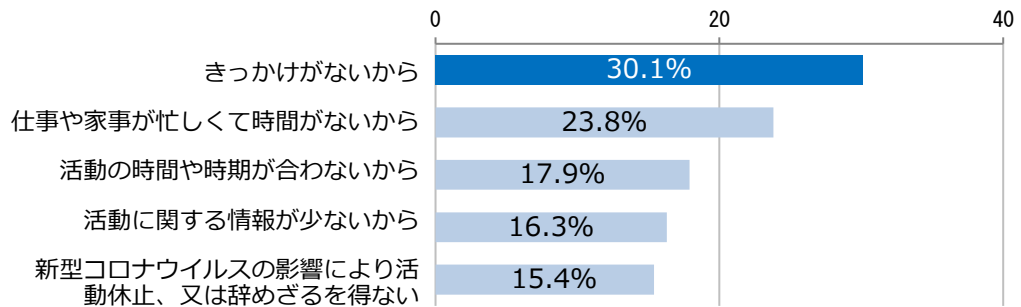
鑑賞する際に情報を入手する媒体（上位5位）【市民アンケート、中高生アンケート（複数回答）】



3 市民が文化に触れるきっかけづくりが求められています

- 活動をしていない、あるいは活動をしている中での課題として、「きっかけがないから」との回答が30%を超え最も多く、これは平成27年度のアンケート結果と同様であり、文化に触れるきっかけをつくることが課題といえます。
- 市政モニターアンケートの自由意見では、「大人が船橋の文化に触れる機会がない」「生活の中で文化に自然に触れられる機会が多いとよい」との意見がありました。

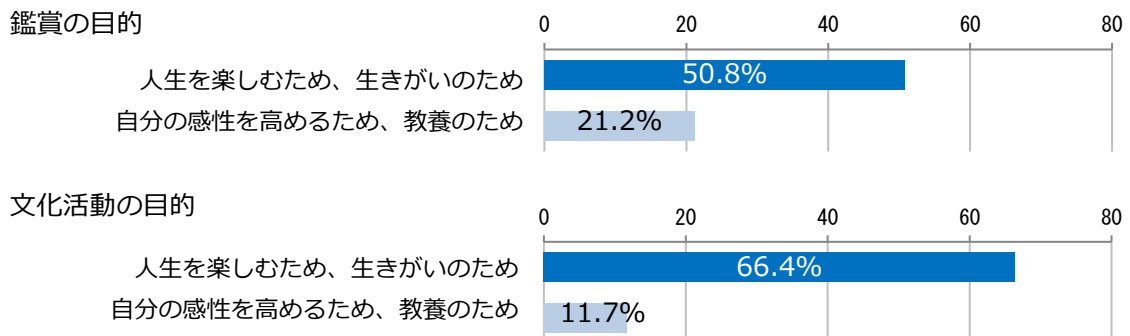
活動をしていない理由、あるいは活動をしている中での課題（上位5位）【市民アンケート（複数回答）】



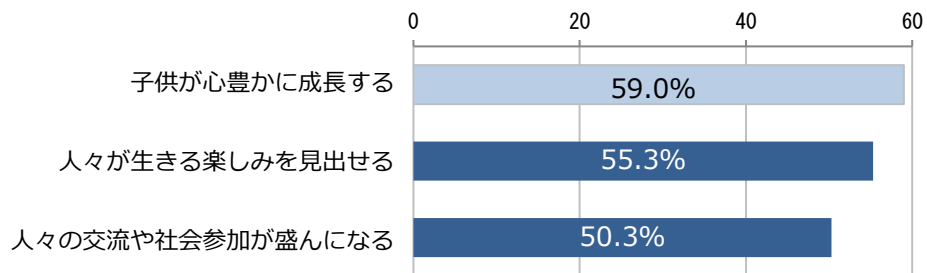
4 人々が文化・芸術に親しむだけでなく、地域や社会とつながるための施策が求められています

- 市民アンケートでは、鑑賞や文化活動を行う目的として、「人生を楽しむため、生きがいのため」が最も多くあげられています。日常生活に楽しさや生きがいを与え、豊かな心を育むという、文化の本質的な価値を捉える必要があります。
- 文化の振興に期待する効果として、子供の成長に次いで、人々の生きがいづくりや地域の交流や社会参加が盛んになることへの期待が高くなっています。
- 平成27年度に実施した文化団体との意見交換会では、学校教育や船橋市の各地域での取組と連携していくことで、より地域に根差した活動として活性化させたいという意見がありました。しかし令和3年度の意見交換会では、「コロナ禍でなかなか思うように学校訪問が出来なかった」、「地域との連携が希薄になった」との意見が聞かれました。

鑑賞や文化活動を行う目的（上位2位）【市民アンケート（複数回答）】



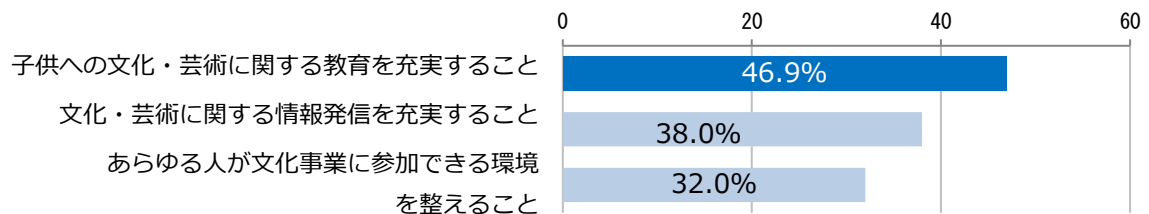
文化の振興に期待する効果（上位3位）【市民アンケート（複数回答）】



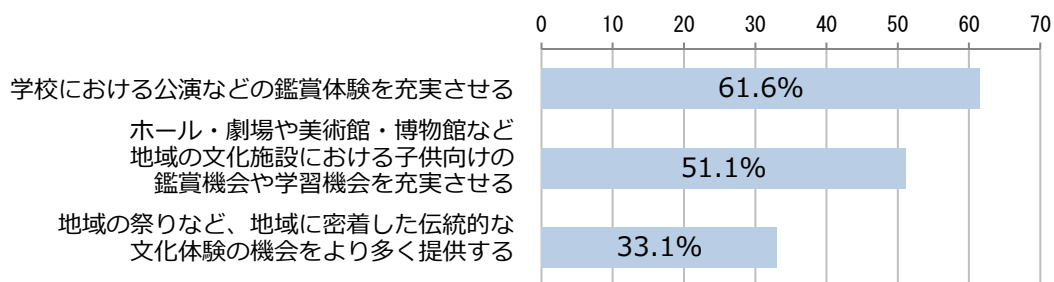
5 将来を担う子供たちが心豊かに成長するための取組が求められています

- 市民アンケートでは、文化振興により社会や地域にもたらされる効果として、約6割の人が「子供が心豊かに成長すること」への期待と答えており、平成27年度アンケート時から変わらず最も高くなっています。
- 今後、力を入れていくべき取組としても、「子供への文化・芸術に関する教育を充実すること」が多く挙げられていることから、特に子供たちが文化に親しむ機会を充実させる必要があります。

今後力を入れていくべき取組（上位3位）【市民アンケート（複数回答）】



子供たちが文化に親しむ機会として重要な事項（上位3位）【市民アンケート（複数回答）】

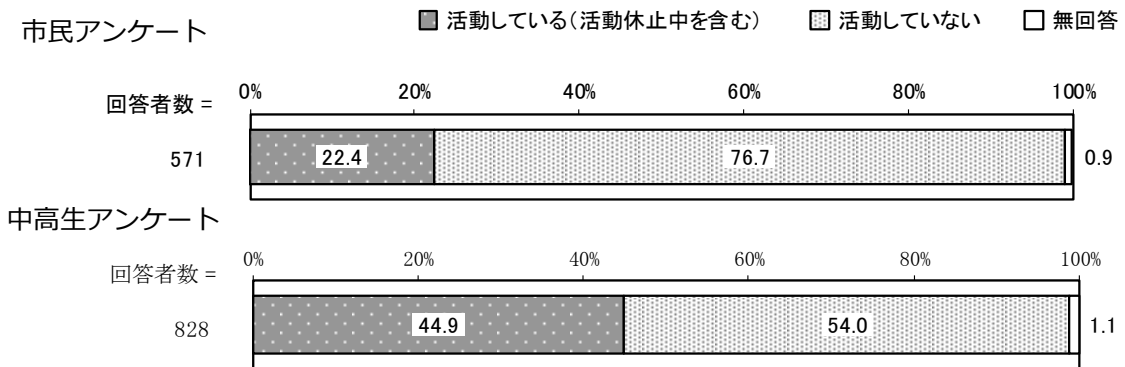


6 生涯にわたり地域で文化活動に参加できる取組が必要となります

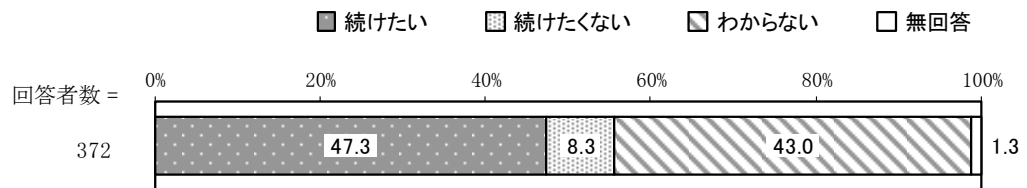
- 市民アンケートでは、文化活動をしている人の割合は約2割となっています。平成27年度に比べ増えてはいますが、まだまだ低い状況と言えます。
- 文化団体アンケートの自由意見では、「学校教育との連携により、生涯にわたって切れ目のない文化振興に努め、将来の団体の会員確保や集客促進につなげるよう取り組んでいる」との声がありました。

- 中高生アンケートでは、4割を超える生徒が文化活動をしており、その半数が現在の活動を卒業後も続けたいと回答しています。子供たちが成長したあとも、地域で活動を続けることができる環境づくりが求められています。

活動状況【市民アンケート、中高生アンケート】



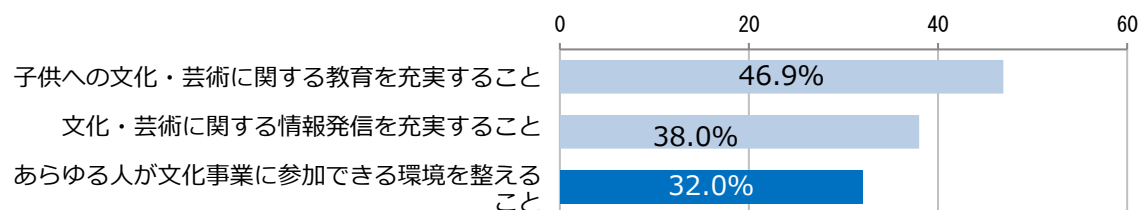
学校を卒業後も活動を続けたいか【中高生アンケート】



7 あらゆる人が文化事業に参加できる環境を整える取組が求められています

- 文化・芸術は年齢・国籍・障害の有無等に関わらず、様々な社会環境にある人がともに楽しみ交流を図ることができるという特性を持っています。
- 市民アンケートでも、今後力を入れていくべき取組として「年齢、性別、国籍、経済状況、障害の有無等を問わず、あらゆる人が文化事業に参加できる環境を整えること」が上位に挙げられています。文化・芸術は、人間の相互理解を深め、共生社会の実現に必要なものと認識されていると考えられます。

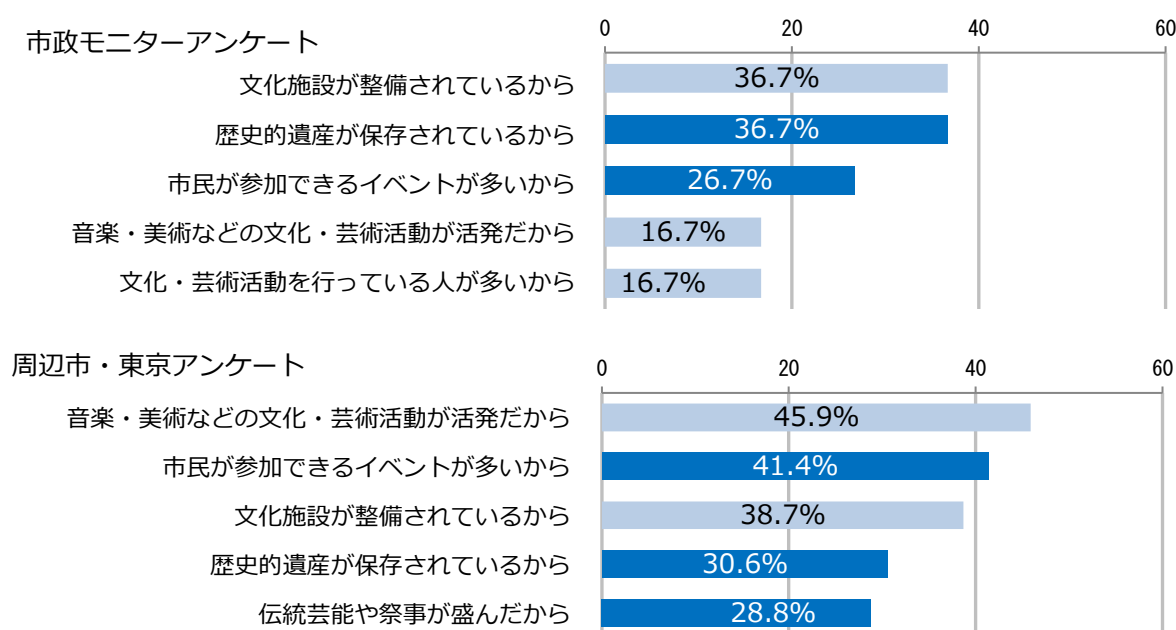
今後力を入れていくべき取組（上位3位）【市民アンケート（複数回答）】



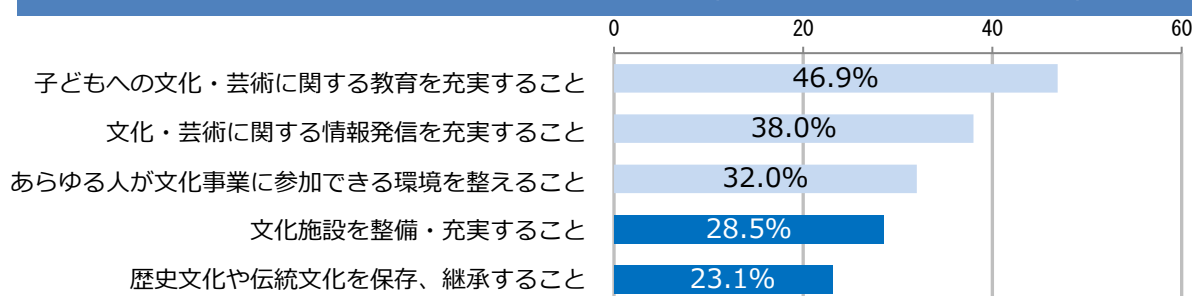
8 人と文化資源をつなぎ地域への愛着・親しみをもてる取組が必要となります

- 文化に対する取組が盛んなまちの実現には、「歴史的遺産の保存」、「伝統芸能や祭事の興隆」や「市民参加型イベントの実施」が必要と考えられます。また、文化・芸術の振興が社会や地域にもたらす効果として「地域に対する愛着の醸成」への期待や、今後、力を入れるべき取組に「歴史文化・伝統文化の保存・継承」と多くの方が回答しています。
- 船橋市の各地域には、自然や歴史等を反映した文化や遺跡などの文化資源が多く残されています。その中には、令和3年10月に国史跡に指定された取掛西貝塚のように、全国的に貴重な文化資源もあります。
- 市政モニターアンケートの自由意見では、「船橋市の文化についてよく知らない」という意見が多く、市民が船橋市の地域の文化をより身近に感じ、地域への愛着や親しみにつなげる取組が求められています。
- 市民アンケートでは、約7割の人が地域の拠点施設である公民館・図書館に行ったことがあると答え、次に市民文化ホールや子ども美術館（アンデルセン公園）となりました。一方、飛ノ台史跡公園博物館や茶華道センターなどは、訪れたことがある人は少ない状況です。地域にある文化資源を有機的に結びつけ活用することが必要です。

文化が盛んなまちだと思う理由（上位5位）【市政モニター、周辺市・東京アンケート（複数回答）】

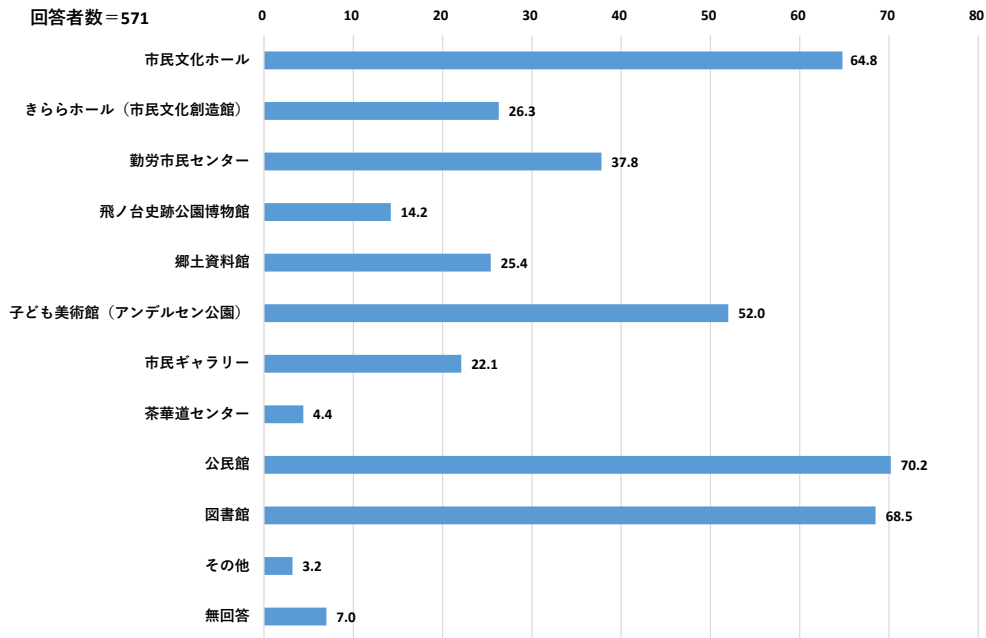


今後力を入れていくべき取組（上位5位）【市民アンケート（複数回答）】

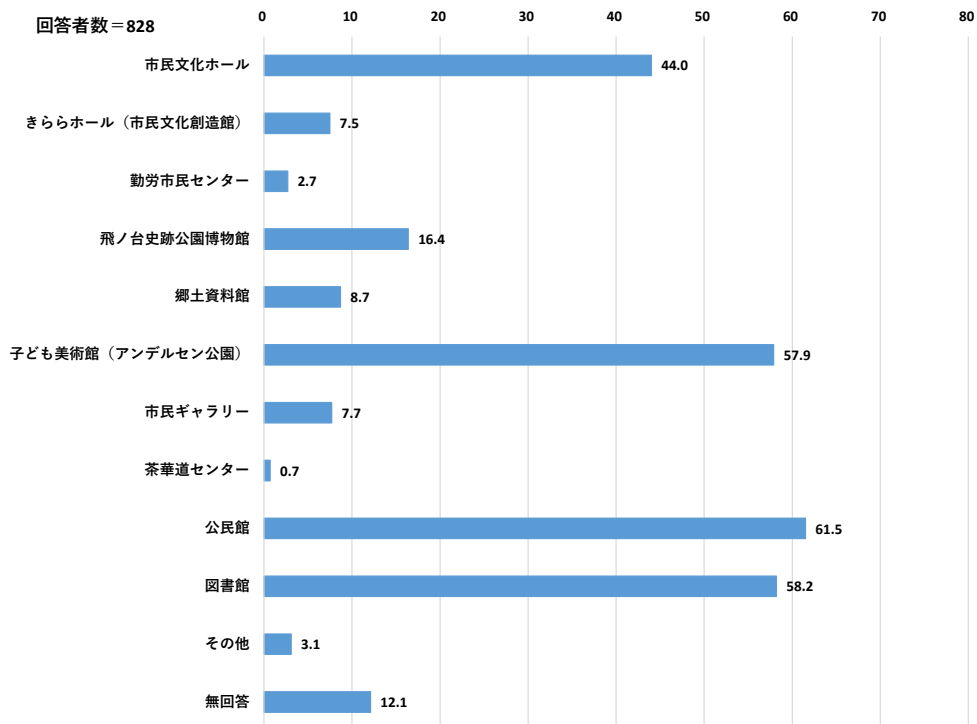


行ったことのある市内の文化施設【市民アンケート、中高生アンケート（複数回答）】

市民アンケート



中高生アンケート



5. 基本的な考え方

船橋市の文化的な特徴を踏まえた施策を展開するために、文化振興に必要な基本的な考え方を6つに整理しました。

これをもとに基本方針を掲げます。

基本的な考え方	概要
1. 効果的な情報の発信	文化に関する行事やイベント、講座、施設、人材などの様々な情報を収集するとともに、広報紙やホームページのほか SNS を有効活用し、様々な媒体により市民に発信します。
2. 文化活動を行うための機会の充実	市民が文化に触れたり、文化活動に参加するきっかけづくりを進め、身近な場所で気軽に文化を体感し楽しめるようにします。
3. あらゆる人が文化活動に参加できる環境の整備	年齢・性別・障害の有無・国籍等に関わらず、ともに楽しみ交流を図ることができるという文化・芸術の特性を活かし、あらゆる人が文化活動に参加できる環境を整えます。
4. 将来を担う子供たちへの取組の充実	将来を担う子供たちが、「ふるさと船橋」を感じながら、「創造力」と「想像力」を育み、心豊かに成長できるよう、文化に触れる機会を充実させます。
5. 地域の文化資源の保存・活用	地域で育まれた伝統文化・食や娯楽を含めた生活文化のほか、市民主体の芸術文化に関する取組など、多くの文化資源を守りながら活用し、未来につなげます。
6. 地域に根差した文化振興	市民が「ふるさと船橋」に親しみを感じることができるよう、地域の文化資源を結び付け、文化施策の効果を市域全体に広げていくことで、地域交流や社会参加を促し、船橋らしい特色ある文化振興を図ります。